

幼稚園獨詠

京都寺西幼稚園長 寺西 聽 學

園を開き既に十年となりにけり小さきながらも春は芽ぐみて

× × ×

百五十我を慕へる幼な兒に春の光はやはらかに照る

× × ×

桃櫻さきもさかれる園庭に群れて遊べる兒等はめぐし

× × ×

世の塵に染まぬ心をなつかしみ日夜毎に我を鞭つ

× × ×

ある時は感きはまりて涙する如き尊き兒等の言葉よ

× × ×

朝禮の此の一時の朗らかさ我が言の葉を靜かにぞ聞く

× × ×

幼な兒に親しまれつゝみ佛の道を歩める我と知りませ

× + ×

初夏の朝はすがしも園庭にタンバアリンの音さはやかに

× × ×

み佛の教かしくみ幼な兒の友となり得ば老も知らなく

新刊紹介

長田新氏譯

『フレーベル自傳』(岩波文庫版)

フレーベル自傳は、幼兒教育研究者の必讀書の中でも主要のものとしなければならぬ。フレーベルを理解する上に、缺くことのできない資料である。長田氏の邦譯は豫て昭和十二年に岩波書店から出版されたが、今更更に改譯の手を加えられて、岩波文庫として新刊された。前の本を讀む機会を未だもたなかつた人々のためには、手に入り易い便宜の版として、是非購讀をおすすめする。内容に就て更めていゝまでもない。長田氏の譯筆極めて流麗暢達である。

(岩波書店刊行、定價六拾圓)

平井信義氏著

『たのしい育兒の科學』

お茶の水女子大學助教授、愛育研究所員、文學士、醫學士平井信義氏の近著『たのしい育兒の科學』は、著者の豊富な學殖と經驗に基いて、醫學的と心理的、理論的と實際的の各面を具備せる育兒書である。殊に、科學的育兒知識の正しさのみでなく、親としての育兒の樂しさを與えようとしているところに、類書を抜く特色がある。書物はすべて著者の人柄によつて生きるが、わけでも育兒といつた問題においてそれが著しい。兒童の愛育の人として常に著者を欣慕しているものにとつては、人間の育兒の本としての此の書の優れていることが、心からうなづかれるのである。

(東京都千代田區錦町正旗社發行、二五〇圓、地方價二六〇圓)

倉橋惣三